

徳島県治山林道協会

治山林道協会報

新年のあいさつ

徳島県治山林道協会会長 山口俊一



平成三十一年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。会員の皆様には、ご健健で新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃は、治山林道事業の推進に格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

ところで「亥の年」の始まりですが、今年には日本にとって未来への希望に繋がる重要な事柄が目白押しとなります。

直近では、皇位継承の厳粛な式典が控えております。また、一年後には東京オリンピック、そして日本国際博覧会へと日本国民を挙げて祭典の準備が進められております。

そういった中、昨年、世界においてまた日本においても浮き沈みの激しい年でした。世界では、アメリカが貿易摩擦に関して中国、欧州、日本における関税問題についての対応を迫り、引き続きその動向をめぐり各国が戦々恐々としている状況です。北朝鮮問題では、米大統領と北朝鮮委員長との会談が実現し、日本にとって不透明な部分も多々ありますが核放棄への望みを繋ぐ局面を迎えております。中国においては、巨大経済圏構想における「一带一路政策」において国力強化を内外に向け発信し、欧州では、英国のEU離脱問題が欧州全体を不安定な局面へと導き、そしてまさにそれぞれの事象が複雑に絡み合い、これから日本に及ぼす影響が非常に懸念されることと見られます。

一方、国内においては、TPP(環太平洋連携協定)が年末に発効され、またEUとのEPA(経済連携協定)対策や改正入管法、消費税等の取り組みなど多くの課題が山積しております。また、長期間つづいた企業の景気回復基調は、世界の動向に翻弄されその方向性が見えてきません。これらを踏まえ、政権運営を託された今、より一層の国力の強化と地方創生に向けた取り組みに邁進していかねばならないと考えております。

政治経済局面において、この様に課題の多い中、昨年も日本列島を多くの自然災害が猛威を振るいました。梅雨前線に伴う線状降水帯豪雨により広島県、岡山県、愛媛県そして高知県、いわゆる西日本豪雨災害で多くの方々が亡くなり、多くの方々が被災されました。徳島県も例外ではなく西部地域で甚大な災害が発生しその対応に追われました。その後も台風等の

豪雨により更なる被災地域の拡大が生じ、現在も国、県、各団体からの応援により復旧に向けた取り組みが各地で鋭意行われているところと見られます。また地震についても全国で頻りに発生しており、北海道胆振東部地域では震度7の巨大地震により甚大な被害を受けました。これら地震発生の様子から発生確率が非常に高い南海トラフ巨大地震の対応が急がれ、事前防災・減災対策が必要不可欠な事案であり、スピード感をもって取り組まねばならない大きな課題となっております。

このため林野事業におきましても、昨今の多発する豪雨による甚大な山地災害の状況を見据え、またこれから起こるであろう巨大地震に備える事前防災・減災対策としての緑の国土強靱化、そして林業の成長産業化を図る上において更なる予算確保に務めてきたところです。

その結果、平成三十一年度第一次補正予算としまして、林野関係予算の災害復旧予算、治山事業関連予算として四六八億円が計上されました。さらに、国土強靱化を含めた第二次補正予算四九三億円もこれから予定されております。

平成三十一年度林野公共当初予算につきましては、一、八二七億円、対前年度比一〇・一五%、治山事業費で六〇六億円、森林整備事業費では一、二二二億円となっております。これらに今回対応されます防災・減災、国土強靱化のための緊急対策を加えますと二、二六九億円、対前年度比一二・六%、治山事業費で八五六億円(対前年比一四・三三%)、森林整備事業費では一、四一三億円(対前年比一一・七四%)となり大幅な増額予算になる見込みです。

また、当初予算とは別に来年度から施行される森林環境譲与税(仮称)の運用が適正にまた効果的に遂行されることにより、今後さらに新しい施策の展開へと導かれるものと考えております。

これからも予算の確保、事業の推進にあたりましては、当協会の会長として、また、「(社)日本治山治水協会・日本林道協会」、「森林整備・治山事業促進議員連盟」の会長として、これまで以上に治山林道事業の推進に精一杯努力して参ります。

今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。これからの会員皆様のさらなるご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。

● 新年のご挨拶	徳島県知事 飯泉嘉門	● 1	● 災害支援派遣活動報告	● 5
● 新年のご挨拶	徳島県農林水産部長 川合規史	● 2	● 平成30年度山地災害防止標語コンクール	● 7
● 平成30年度日本林道協会通常総会 治山・林道コンクール表彰式		● 3	● 本協会の主な動向(11月~1月)	● 7
● 治山林道技術研修会開催		● 4	● 備忘録	● 7

目次
CONTENTS

新年のご挨拶



徳島県知事 飯 泉 嘉 門

明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかに迎えたいことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、平昌冬季オリンピック・パラリンピックにて多数の日本人メダリストが生まれ、東京大会への機運が一段と高まるとともに、「TPP11」の発効、「成年年齢の十八歳への引き下げ」を盛り込んだ「改正民法」、徳島も関係した二〇二五年「大阪・関西万博」決定など、我が国の社会経済構造に劇的な変化をもたらした年でありました。

県内でも、スポーツ・文化が大いに盛り上がり、アジア初となる「ウエイクボード世界選手権大会」には三〇か国、一万人を超える皆様がご来場。二年連続の世界大会を通じ、徳島の魅力を世界に発信いたしました。また、文化の森野外劇場が、一、〇〇〇人収容・全天候型の「すだちくん森のシアター」に生まれ変わり、多彩な活動が開かれたほか、一〇年ぶりの「近畿高等学校総合文化祭・徳島大会」では、日本文化の未来を担う高校生六、五〇〇人の素晴らしいパフォーマンスが、深い感動を与えてくれました。

さらに、長年受け継がれてきた「にし阿波の傾斜地農耕システム」の「世界農業遺産」認定をはじめ、ベートーヴェン「第九」アジア初演一〇〇周年、皇太子殿下による「地震津波碑」の御視察、勝

浦町での国内最古級「恐竜化石を含む地層（ボーン・ベッド）」の発見など、「徳島」の名が国内外へ度々発信されました。

加えて、消費者庁「消費者行政新未来創造オフィス」と連携し、その成果を積極的に発信することで、中四国、関西、そして全国へと共感の輪が広がっており、視察された安倍総理から「徳島でフィールドワークがしつかりとでき、その果実を全国展開していくという、非常にいい流れができた」とのご発言を賜りました。

一方、昨年は、台風や集中豪雨、地震が全国で相次ぎ、「災害列島」の様相を呈しておりました。本県でも大きな被害のあった「平成三十年七月豪雨」では、速やかな災害復旧事業により、県土面積の七六％を占める「森林」の保全を図るとともに、関西広域連合の「四国の窓口」として、愛媛県や高知県へ「リエゾン」を派遣し、総務省からの要請のもと、宇和島市の「対口支援団体」として、応急復旧から生活再建まで総合的支援を行いました。こうした活動で得られた教訓から、防災・減災対策をさらに充実、国貸与の「全地形対応車」を含む水害に特化した「大規模風水害即応機動部隊」を全国で初めて創設すること致しました。治山事業による「緑の県土強靱化」や、林業振興に加え緊急輸送道路を補完する役割を担う林道整備事業についても、引

き続き積極的に展開して参ります。

さて、改元が予定され、「新たな時代の幕開け」となる今年の干支は「己亥（つちのと・い）」。「己」は「紀」に通じ、乱れを正し、あらゆることを収める。「亥」は「核」と同義、エネルギーの凝縮を示します。そこで「己亥」は、「これまでの乱れを収め、次世代に向けて新たなスタートを切る年」とされます。

いよいよ始まる「三大国際スポーツ大会」、ラグビーワールドカップでは、徳島で事前チームキャンプを行う強豪国「ジョージア」の活躍が期待され、徳島・香港間の「季節定期便」が、インバウンド促進はもとより、徳島から世界へと向かうアウトバウンドを一層拡大します。徳島が持つ数々の宝物を、国内外の方々に知っていただき、観光振興やビジネス発展、そして「地方創生」へつなげて参ります。

人口減少や大規模災害など「国難」に立ち向かい、「vs東京」とくしま帰郷『総合戦略』の総仕上げや、さらなる県土強靱化に全力で取り組み、眼前に広がる「未知の世界」へ、積極果敢にチャレンジして参ります。本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

結びに、徳島県治山林道協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



徳島県農林水産部長 川合規史

新年明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様には、つづがなく新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より、治山林道事業をはじめ、本県農林水産行政全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、「平成三十年七月豪雨」や相次いで接近・上陸した台風、さらには広範囲で発生した地震などが全国各地に大きな爪痕を残した一年となりました。本県においても、三好市をはじめ、各地で林地や林道の大規模な災害が発生し、県土面積の約四分の三を占める森林の整備や保全に直結する治山林道事業の重要性を再認識したところです。

県ではこれまでも、平成二十九年度二月補正予算と平成三十年度当初予算を合わせた十四か月予算により、県土強靱化をはじめとする諸課題に取り組んできましたが、今回の災害についても、まずは県単独で迅速かつきめ細やかに対応するための九月補正予算、次いで国の事業を最大限活用した十一月補正予算を編成し、速やかな復旧に努めているところでもあります。

多発する自然災害を受け、国では、昨年十二月に、事前から災害に備え、国民の生命・財産を守ることを目指した「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊

急対策」を策定しました。これを受けて決定した平成三十一年度政府林野公共予算案では、対前年度比百二十六パーセントの大幅増となる総額二千二百六十九億円が確保されるとともに、平成三十年度二次補正予算案として三百二十五億円が措置され、速やかに対策に着手することとなりました。

県といたしましても、これらを最大限に活用して、更なる補正を含む予算の編成に取り組むこととしており、今後とも、間伐などの森林整備や治山施設の設置による森林の防災機能強化、発災時には緊急輸送道路ともなる林道の整備など、災害に備えながら林業の成長産業化を目指す積極的な事業展開を図って参ります。

また、日頃から、山地災害や土木技術に関する専門知識を有する「山地防災ヘルパー」の皆様は、危険地区の情報提供や点検・パトロールの強化についてご協力をお願いしているところですが、災害発生時には、小型無人機ドローンなども活用して迅速に現場調査や復旧計画の策定などを進めて参りたいと考えております。

そして、このようなハード・ソフト両面からの対策を一体的に進め、将来見込まれる「南海トラフ巨大地震」などあらゆる大規模災害を迎え撃つ「県土強靱化」に全力で取り組んで参る所存です。

加えて、森林の維持保全を図る新たな

財源として、平成三十一年度から譲与される「森林環境譲与税(仮称)」を活用し、市町村と連携して、間伐や路網整備などに取り組み、森林吸収源対策や災害に強い森林づくりを進めて参ります。

今後とも、「県民目線・現場主義」を徹底し、市町村や地域住民の皆様と十分な連携を図りながら、効率的かつ効果的な事業推進に努めて参りたいと考えておりますので、より一層のご支援とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、徳島県治山林道協会のおますますのご発展と会員の皆様のご健康、ご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



平成三十年度 日本林道協会通常総会 治山・林道コンクール表彰式



十一月二十九日東京都内のホテル・ルポール麹町で平成三十年度の日本林道協会の通常総会が開催されました。冒頭山口会長から、「災害に伴う防災減災対策は非常に重要であり政府も十分理解しており最優先課題となっている。先だってもこれらについて、議員連盟や治山治水協会として財務省への要望活動をおこなってきたが、これらを受け首相も二次

補正、当初予算において防災減災にウエイトを置いていた取り組みを行うと言われていた。今後林野公共事業について施策の重要な位置づけと、当初予算の確保に向け努力していきたい」との力強い決意の挨拶がありました。

また、来賓の牧元林野庁長官より「緑の国土強靱化対策と林業成長化産業の実現に向けた森林土木事業の着実な推進を図っていく」との挨拶がありました。

続いて山口会長が議長に就任し議案第一号から議案第五号まで全会一致で原案どおり承認され、林道事業予算の確保と施策の充実等五項目について取り組んで行くこととなりました。

恒例の「治山・林道コンクール表彰」が行われ、農林水産大臣表彰七名をはじめ合わせて二六六名の方々が賞を受賞されました。徳島県では、つるぎ町が林道維持管理コンクールにおいて晴れある農林水産大臣賞を受賞されました。

本県の受賞者の皆様方は次のとおりです。まことにおめでとうございます。

治山・林道コンクール表彰者

農林水産大臣賞

- 第四十一回林道維持管理コンクール
つるぎ町長 兼 西 茂

日本治山治水協会会長賞

- 第三十四回民有林治山工事コンクール
株式会社 小野組 小野 恭 補

日本治山治水協会会長賞

- 第十九回民有林治山木材使用コンクール
株式会社 平田組 平田 茂

日本林道協会会長賞

- 第三十四回民有林林道工事コンクール
株式会社 西村建設 西村 裕

日本林道協会会長賞

- 第十九回民有林林道木材使用工事コンクール
株式会社 広沢組 廣 澤 義 典

つるぎ町 赤帽子



治山林道技術研修会開催

十月三十日徳島市の建設センターにおいて徳島県のご協力のもと、平成三十年度治山林道技術研修会が盛大に開催されました。

約一〇名以上の参加があり、治山林道工事に繋がる研究や情報、安全で事故のない現場管理、及び日々変貌する森林土木技術の対応と資質向上を目指す研修となりました。参加者は全国土木施工管理技士会連合会の継続教育学習制度C P D Sの単位を取得されました。

研修の講師及び概要については次のとおりです。



■研修Ⅰ 近年の山地災害の発生状況について

徳島県農林水産部農林水産基盤整備局

森林整備課 一原 係 長

インフラ長寿命化計画について

徳島県農林水産部農林水産基盤整備局

森林整備課 秋田主査兼係長

近年日本全国において自然災害の発生が頻繁にありそれが巨大化傾向にある。またそれらがもたらす被災も甚大になりつつあるため、事前の減災防災対策である流木対策としてスリットダムなどの取り組みについて説明があった。また、治山施設の有効活用におけるインフラ長寿命化対策と今後の計画、個別施設への進捗と重要性についての紹介があった。

■研修Ⅱ 労働安全衛生について

徳島労働局 労働基準部

三木 課 長

全国での労働災害発生状況とその現状と課題についての紹介があった。また県内での「建設業労働防正特別運動二〇一八」の取り組みやこれまでの災害の具体的な状況と回避についての説明が行われた。

■研修Ⅲ 最近の豪雨災害の特徴と防災対策について

徳島大学・環境防災研究センター

中野 教授

最近の頻繁に発生する豪雨災害の傾向と気象条件から伺える今後の展開についてこれまでの具体的な



事象である豪雨災害から読み解くなどの説明があった。西日本豪雨では愛媛県肱川の鹿野川ダムにおける放水と避難のタイミングについて説明があった。引き続き今後の気象等豪雨情報を個人で積極的に把握することの重要性と自主避難と避難誘導等の在り方について紹介があった。

■研修Ⅳ 土木技術者の原点と今後の対策セミナーⅣ

コンピューターシステム研究所

松野 次 長

担い手三法が改正され入札制度が変わり技術者もそれに対応していかなければならないが現場での基本体制は変わっていない状況にある。今回は、仮設構造物の計画と施工に関して安全管理も含め、変更を踏まえた着眼点や直接的な対応について研究と実例により説明が行われた。

災害支援派遣活動報告〔愛媛県〕

徳島県東部農林水産局(吉野川)

主査兼係長

宮本真二

災害概要

平成三十年七月豪雨は、西日本各地に大規模な被害をもたらした。徳島県でも三好市を中心として大きな被害を受けた。

同じ四国の愛媛県でも、南予地方を中心とする多くの観測地点で最大七十二時間降水量が史上二位を記録し、林地で二百四十六か所、約百二十四億円、林道で二百十三路線、約四十一億円という甚大な被害が発生しました。林業関係被害全体の六十八パーセントが南予地方局管内に集中しています。

活動状況

私は、平成三十年九月から十二月までの四か月間、愛媛県に派遣され、県内で最も被害の大きかった宇和島市の南予地方局森林林業課で、林地の災害復旧に向けた現地調査や測量・設計、災害の影響で滞り気味だった通常の治山林道事業に携わりました。

まず、被災した林地の復旧に向け、災害関連緊急治山事業として国に採択された五箇所(事業費約四億円)について、早急に工事に着手できるように測



量・設計の補助業務を行いました。

また、災害関連緊急治山事業後の残工事及び被害を受けた他の林地復旧(二十二箇所、事業費約九億円)については、平成三十一年度以降、速やかに事

業が実施できるよう事業計画書等の作成に取り組みました。

これら以外にも、今回の災害箇所ではありませんが、予防治山事業の現場を監督員として担当させていただき、三月まで工事期間があるにもかかわらず、今後急増する災害復旧工事の発注に備えるためにも、施工業者さんが努力されたおかげで、派遣期間終了間際の十二月二十六日に竣工検査を行うことができました。

一月からは徳島県に帰県し、吉野川管内の治山林道業務に取り組んでいるところです。

四か月という短い期間ではありませんでしたが、今回の貴重な経験を生かし、徳島県の治山林道事業の推進に貢献していければと思います。



災害支援派遣活動報告〔福岡県〕

徳島県農林水産政策課 主査兼係長 村浪彰英

災害概要

福岡県朝倉市では、平成二十九年七月五日から六日にかけて、発達した梅雨前線により発生した線状降水帯が豪雨をもたらし、最大二十四時間降水量は八百二十九ミリ、最大時間雨量は百三十九ミリを記録しました。（平成二十九年七月九州北部豪雨）

豪雨により県内で発生した林業関係被害は、林地で二百七十二箇所、約百五十億円、林道で十五路線（六十六箇所、約十七キロ）、約二十五億円に上りました。

活動状況

私は、被災林道の復旧業務のため、平成三十年四月から一年間の予定で福岡県へ派遣され、朝倉市役所朝倉支所の林道災害復旧班で他の八名（朝倉市役所三名、派遣五名）と共に災害復旧に向けての設計・現場監督や県単事業、当年度災害の対応等の業務にあたっています。

私の担当する路線は、被害の大きかった市東部に位置する赤谷川の支流で乙石川流域から延びる連絡

林道中村白木線（延長約六千二百メートル）です。

被災箇所は五箇所（計四十八現場）あり、被災延長約三千六百メートル、被災金額五億七千三百万円にも上ります。起点、終点共に路体が流失しています。起点側は河川沿いということもあって砂防計画が確定するまで着手出来ず、終点側からのみの復旧工事となっています。

工種は、擁壁工、法面保護工、暗渠工などで特殊な工法等はないものの、慢性的な人手不足、多量の倒木・流木、降雨後に「ぬかるみ」となるこの地域特有の地質（真砂土）など現場条件は良くありませんが、復興していく様子が見えることに被災者は励まされるところも聞き、スピード感を持ち工事を進めることの重要性を認識しました。

工事にあたっては、被災された地元の方や事業者、国交省等の関係機関とその都度協議を行い、工事が円滑に進むよう努めてはいますが、あの時はこうすればもっと良かったと反省する事も多くあります。

派遣終了まであと少しの期間になりましたが、朝倉市の早期復旧のため微力ながら頑張るとともに、この経験を今後の業務に生かせるよう日々研鑽を積んでいきたいと思えます。



平成三十年度 山地災害防止標語コンクール

「土砂崩れ 誰が守るの 森林だ」

優秀賞

海老名 穂さん

(徳島県名西郡神山町 神山中学三年)

日本治山治水協会主催の山地災害防止標語において、全国優秀賞 五点中の一点として、海老名 穂さん（徳島県名西郡神山町 神山中学三年）が受賞されました。

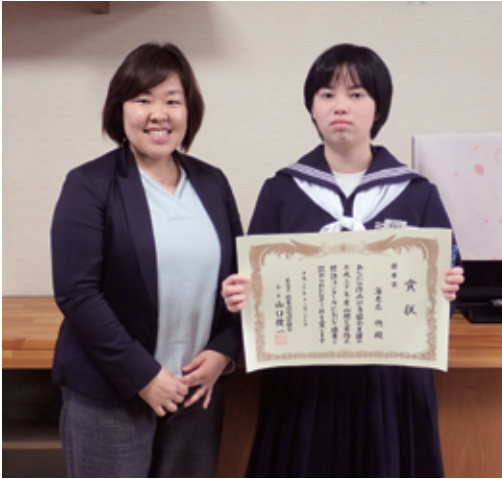
このコンクールでは山地災害に対する国民の理解と関心を深めるため、都道府県及び市町村が行う「山地災害防止キャンペーン」の関連行事として、標語の作品を募集してきました。

標語のテーマは「山地災害の防止、森林や治山事業の効果、防災意識の高揚」などを広く国民に呼びかけるもので、災害から守ること、防災パトロール、山でくらす人々と災害に関連すること等がテーマとなっています。

近年、局地的に甚大な被害をもたらす豪雨災害が頻繁に発生し、国民県民の安全・安心に対する関心が高まっており、このため脆弱な地形環境の徳島県にとって災害を今一度考える機会になればと関係者の皆様方に参加を願いました。

標語コンクールの全国応募総数は三千六七点で、その中から最優秀賞一点、優秀賞五点、奨励賞五点が選ばれました。

今回は、このように多くの作品の中から優秀賞を受賞されました。海老名さん誠におめでとうございました。また応募されました皆様ありがとうございました。今後も作品の応募よろしく願いたします。



備 忘 録

平成31年の新春 謹んでお喜び申し上げます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年も日本各地で大きな災害があり、災害対応の一次補正が実施され、年末には災害、公共対策を含む二次補正の発表もありました。事前の11月には徳島県森林組合連合会、徳島県素材生産流通協同組合と当協会がH31当初予算と補正に関する要望陳情を国の財務省主計局に行いました。主計官より補正に関して防災減災、国土強靱化について出来るだけ対応していきたいとのことでした。また森林環境税、森林環境譲与税（仮称）における市町村の取り組みについては十分承知しているのだからしっかり取り組んでいくとの話がありました。

巷では当初予算大幅増の声も聞こえつつありますが、予算獲得に向け十分気を引き締めて取り組んで参りたいと思います。

本協会の主な動向 (11月～1月)

11月

- 6日(火) 林野公共事業に関する要望活動 (東京都 財務省)
- 8日(木) 平成30年度中四国森林土木建設業協議会 (高知県)
- 28日(水) 2018治山林道のつどい、創立80周年記念治山功労者表彰
- 28日(水) 平成30年度全国森林土木建設業協会技術・労働委員会 (東京都)
- 29日(木) 平成30年度日本林道協会通常総会、治山・林道コンクール表彰式 (東京都)

1月

- 15日(火) 平成31年度治山林道事業に関する知事要望